ノーサイド

北原巌男

今年の「防衛白書」を手にして

先日発表され、本紙（8月15日付）も紹介している「令和8年版防衛白書」。

皆さん、もう、ご覧になられましたでしょうか？

いいえ、中身ではありません。その表紙絵。

防衛白書と大きく書かれた漢字が無かったら、これが防衛白書だと思う人は、まず、いないと思います。それだけに、インパクト抜群、前代未聞の表紙絵です。

「表紙の作画　刈谷仁美氏　・・・本白書のテーマである『未来につながる安全保障』を表現するために、技術などが発展した先にある未来感のある街並みと、その未来に生きる若者たちの笑顔を表現しています。」（同白書　6ページ）

ずっしりと重い本白書を手に取る時、少し中身を読んで閉じる時、この屈託のない若い家族（？）の皆さんの笑顔に会います。いいなぁ・・・。筆者が現役の頃には、全く想像することすらあり得なかった表紙です。仮に考える稀有な人がいたとしても、一笑に付されるどころか、一喝され、あっという間にTheEndではなかったか。何かとてもふんわりした温かいものを感じ、ホッとします。

こういう笑顔がずっと続く平和な日本でなければ絶対ダメ。

かつてない厳しさ、底知れぬ空気や危惧がつのるわが国周辺の国際情勢。国民の理解と支持の下、抑止力として、最後のよりどころとして、わが国自身の防衛力の整備・強化に努めると共に、唯一の同盟国米国との日米安保体制を揺るぎないものにして行かねばならないことはもちろん、同志国との一層の連帯強化は焦眉の急です。

今を生きる私たち国民を主導し、国の舵取りをする首相はじめトップリーダーの皆さんには、謙虚に歴史に向き合い、学び、平和を未来に繋げるしたたかな戦略外交、防衛外交の展開が求められます。その最たるものは、「中国の対外的な姿勢や軍事動向などは、わが国と国際社会の深刻な懸念事項であるとともに、これまでにない最大の戦略的な挑戦であり」（白書　40ページ）とする対中国外交・・・こんなことを考えさせられる表紙絵でもありました。

そんな今年の防衛白書の巻頭言。筆者は、小泉進次郎防衛大臣の次の言葉に目が止まりました。

曰く「今回の白書では、『プロフェッショナルな自衛隊員』と題する章を新たに設けました。自衛官のみならず、事務官、技官、教官などから構成される自衛隊員一人ひとりが、わが国の平和と独立を守る普遍の使命を担い、それぞれの分野で重責を果たしている姿を紹介しています。」

具体的には、第Ⅴ部の「人的基盤の強化」の中で、「様々な勤務場所で任務を全うする自衛隊員」および「自衛隊員のキャリアアップ」との見出しの下に、自衛官であると事務官、技官、教官であるとを問わず、等しく防衛力の中核である自衛隊員としての活躍を記述しています。

かつて筆者は、世の中の関心が、ひたすら約22万人の自衛官の皆さんに向かい、その処遇改善等が大きな脚光を浴びている中、約2万人の事務官・技官・教官の皆さんのことを忘れないで欲しいと訴えたことがあります。「・・・関係閣僚会議の皆さんや国民の皆さんに忘れないで頂きたいのは、防衛省・自衛隊に在って、自衛官の皆さんと一体になって防衛力の重要な基盤を構成している人たちの存在です。・・・彼らは、自衛官と同じ自衛隊員なのです。自衛官同様、自衛隊法施行規則第39条に定める「服務の宣誓」（「・・・事に臨んでは危険を顧みず、身をもって責務の完遂に努め、もって国民の負託にこたえることを誓います。」）を行っているのです。今回の閣僚会議での検討に際しては、こうした彼らの現状や課題等についても、その実態把握等に努める等により、総合的な方策を行っていただきたいと思います。」（2024年11月1日付本欄筆者拙稿「人的基盤の強化、速やかな決断と実行を！」より）

今回の白書（551～552ページ）は、「・・・2026年3月、防衛省として初めて、事務官、技官などを対象とした「人財戦略」を策定した。防衛省では、この「人財戦略」にお

裏の必郎に続きます

※

いて職員一人ひとりを人財と位置づけ、「働きがい」の向上と、個人の可能性を最大限引き出すような施策を進めている。昨今の様々な取組と、「人財戦略」に基づく様々な施策を通じて、一人ひとりの職員が、成長実感や国防に貢献している実感を持ち、戦後、最も厳しく複雑な安全保障環境において、国民の期待に真に応えられる組織を目指していく。」としています。この『事務官・技官等』人財戦略」(防衛省大臣官房秘書課　令和8年3月発行)も明言しているように、「防衛省においては、組織目標を達成するために必須の要素としては、人、予算、装備、情報があると考えられるが、このうち、人が最も重要である。」ことは、論を待ちません。事務官・技官・教官などの皆さんの士気は高揚することと思います。

しかし、白書の同じページ(552ページ)には、同時に、こんな記述があります。「まずは本省内部部局において、個々人が成長実感を持てる施策や人財マネジメント制度を構築することを目的にしている」と。少なからず肩透かしを受ける感を禁じ得ません。

「まずは本省内部部局において」ではなく、陸・海・空自衛隊・統幕は言うに及ばず、防衛省・自衛隊全体を巻き込んでの技官・事務官・教官などを対象にした構築を、大変でしょうが、「急がばまわれ」、最初から目的にするほうがよかったのでは・・・。

当該「人財戦略」の中に掲載されているデータを見ても、本省の事務官・技官等の定員は2万人の僅か7%。しかも、内部部局の構成は、事務官・技官等がほとんどを占める組織。自衛官は極少。反対に、自衛官が圧倒的に多いのが陸・海・空・統幕。その中で頑張っている事務官・技官等の皆さんの定員は、2万人の62%に及びます。

「まずは本省内部部局において」構築されたものが、各自衛隊を含む防衛省・自衛隊全体に対して普遍性を持ち得るだろうか・・・。内部部局だけに留まってしまうようなことにならなければいいが・・・。一OBである筆者の杞憂であることを願って止みません。

今、この時間も、全国各地の事務官・技官・教官などの皆さんは、自衛官の皆さんと一緒に、常に国民と共に在る国民の自衛隊員として、いかなる事態の生起に際しても、しっかり国民の負託に応えて行くべく黙々と頑張っています。

全ての自衛隊員の皆さんに、静かに力いっぱいの声援を送りつつ白書を閉じます。

北原　巖男（きたはらいわお）　元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現日本東ティモール協会会長。（公社）隊友会理事